

図書館員のひみつの本棚 第143回

今月は、絵画の謎をテーマにした物語です。

『ベラスケスの十字の謎』

エリアセル・カンシーノ／作 宇野 和美／訳 徳間書店 2006年 1512円

<お勧め年齢>

乳幼児-- 低学年-- 中学年-- 高学年-- 中学生☆☆☆
高 校☆☆ 一 般☆☆

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

少年ニコラスは大きくなれない体であることを理由に、父親に捨てられ、故郷のイタリアからスペイン宮廷に連れてこられる。父親の愛情を得ることはできなかった彼だが、その利発さで宮廷では自分の居場所を手に入れることができた。

そんなある日、王宮の中で酔った貴族とトラブルを起こしてしまった彼は、友達の助言により、宮廷画家のベラスケスに助けを求めに行く。そこにはベラスケスと一緒に正体不明の男ネルバルがいた。ネルバルの提案で、ベラスケスが今描いている絵の中に描かれることになったニコラスは、その事がきっかけでベラスケスに仕えることになる。

この絵をどう描けばいいのか思い悩んでいたベラスケスは、ニコラスをネルバルのもとに使いに出す。ネルバルに助言を求めたのだ。しかし、ネルバルはニコラスに助言を与えず、代わりに未来を見せる。

17世紀のスペインを舞台に実在する絵の謎を物語にしたファンタジー。

<子どもに手渡す時のポイント>

17世紀を代表するスペインの画家ベラスケスの描いた「侍女たち（ラス・メニーナス）」にまつわる謎をテーマにしたファンタジー。本の中の絵がモノクロなので、ベラスケスの画集などからカラー版の絵を見せてあげると物語世界が更に広がっていくと思います。スペインの児童文学賞ラサリーリョ賞受賞。国際児童図書評議会（IBBY）が選ぶブックリストにも選定されています。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

